

ピカピカ粒剤

[フィプロニル・イソプロチオラン・ピロキロン
粒剤]

農林水産省登録 第20234号

有効成分 フィプロニル…1.0%
イソプロチオラン…8.0%
ピロキロン…2.0%

性 状 類白色細粒

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称） 危険物：- 有効年限：4年 包装：1kg×12（紙パック） RACコード：殺虫[2B]殺菌[6][16.1]

特長

- 育苗箱処理により水稲主要病害虫であるいもち病、コブノメイガ、ニカメイチュウ、ウンカ類等を同時に防除できる。
- いもち病に対する有効成分としてイソプロチオランとピロキロンを配合することにより相乗的な効果の向上が期待でき、安定した防除効果を発揮する。（特許取得）
- 包装容器(紙パック)の上部穴からそのまま育苗箱に散布できるため散布が簡便である。

効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使い切る。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植する。
- 本剤の処理により、軽微な葉先枯れ等の薬害を生じる場合があるので所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守する。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので、注意する。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意する。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- フィプロニルによる中毒に対しては、動物実験でフェノバルビタール製剤の投与が有効であると報告されている。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン長袖の作業衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しない。

ピカピカ粒剤

- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	イソプロチオランを含む農薬の総使用回数	ピロキロンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 ウンカ類 イネミズゾウムシ イネドロオウムシ コブノメイガ ニカメイチュウ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植前3日～ 移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	1回	3回以内(移植前は1回以内、本田では2回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は 1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ)1箱当り50～100g)						

製品写真



最新の登録内容はこちら

